

若者の働き方と意識の変化

—「若者のワークスタイル調査」から—

労働政策研究・研修機構
堀 有喜衣

発表内容

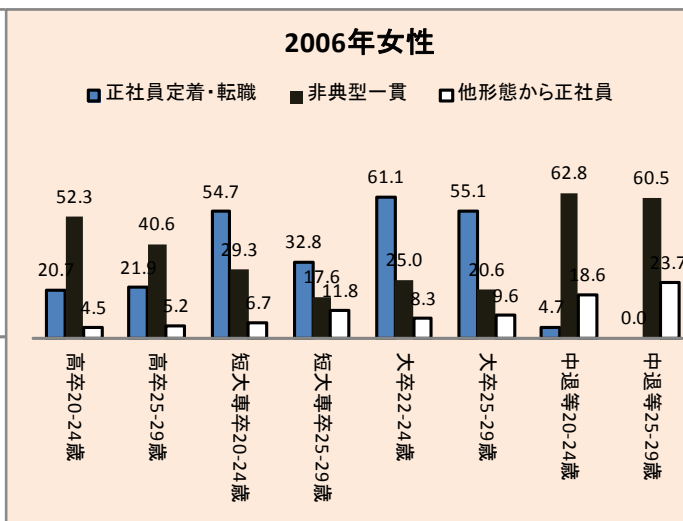
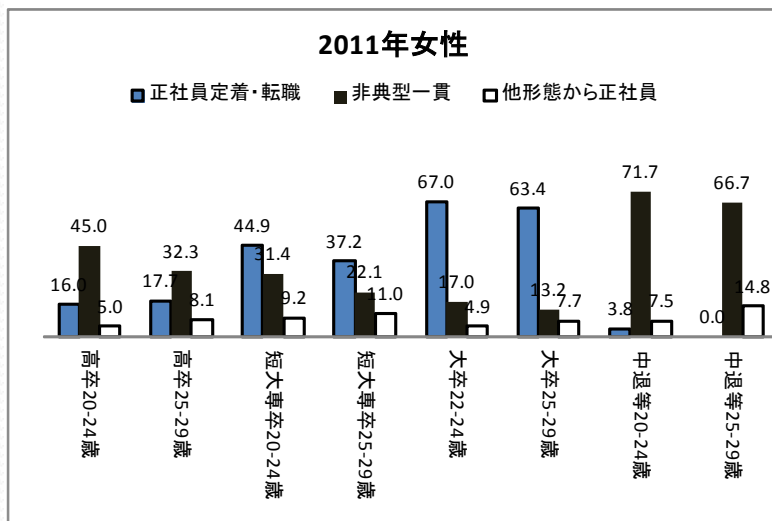
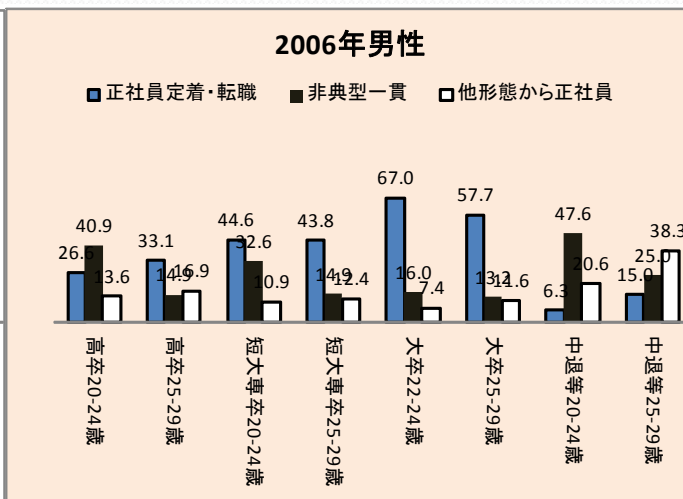
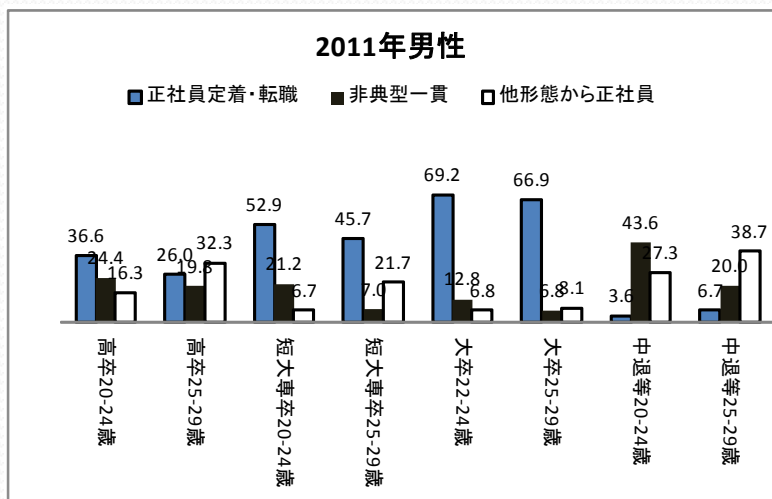
- キャリアや働き方の変化
- 意識の変化
- どんな若者が非典型雇用から正社員に移行しているか
ーケース記録から

図表1 離学時に失業・無業・非典型雇用だったが、その後正社員へ移行した者の割合

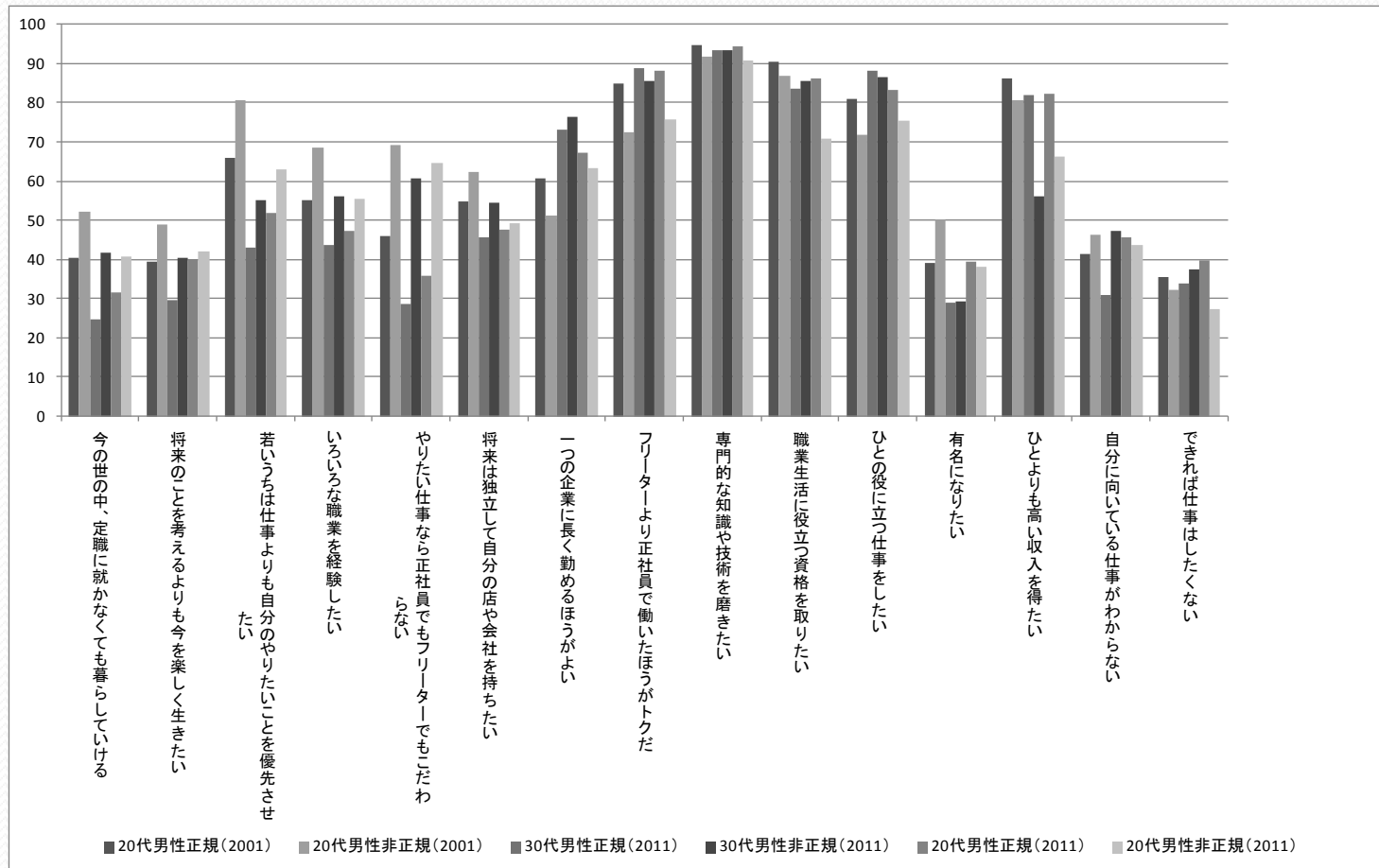
単位：%

		2011年調査		2006年調査	
		後に正社員(公務員含む)経験あり	N	後に正社員(公務員含む)経験あり	N
男性	アルバイト・パート	52.5	223	42.7	246
	契約・派遣等	51.7	60	37.3	51
	失業・無職	47.3	91	39.6	91
	男性計	51.1	374	41.2	388
女性	アルバイト・パート	28.3	219	28.6	238
	契約・派遣等	40.2	107	39.2	74
	失業・無職	27.9	68	25.4	67
	女性計	31.5	394	30.1	379
男女計	アルバイト・パート	40.5	442	35.7	484
	契約・派遣等	44.3	167	38.4	125
	失業・無職	39.0	159	33.5	158
	男女計	41.0	768	35.7	767

図表2 キャリア類型の比較



図表3 若者の意識の変化(速報値)



図表4 就業形態別社会保険への加入状況

①健康保険

単位：%

	会社の健康保険・共済保険	国民健康保険	その他	どれも加入していない	無回答・不明	合計
男性 正社員(公務含む)	71.7	20.0	0.4	0.6	7.3	689
アルバイト・パート	27.2	53.8	0.0	5.2	13.9	173
契約・派遣等	58.9	32.1	0.0	3.6	5.4	56
自営・家業	20.0	70.0	0.0	4.0	6.0	50
男性計	60.3	29.3	0.3	1.8	8.3	968
女性 正社員(公務含む)	79.7	10.3	0.0	0.5	9.4	562
アルバイト・パート	33.2	52.2	1.2	2.0	11.5	253
契約・派遣等	66.4	23.7	0.0	0.8	9.2	131
自営・家業	28.6	60.7	0.0	0.0	10.7	28
女性計	64.4	24.4	0.3	0.9	10.0	974

②年金保険

単位：%

	国民年金	厚生年金・共済組合	加入していない	わからない	合計
男性 正社員(公務含む)	23.8	69.1	2.3	4.8	689
アルバイト・パート	54.3	11.0	20.2	14.5	173
契約・派遣等	28.6	51.8	14.3	5.4	56
自営・家業	60.0	14.0	18.0	8.0	50
男性計	31.4	54.9	7.0	6.7	968
女性 正社員(公務含む)	15.5	77.9	0.9	5.7	562
アルバイト・パート	59.7	17.4	9.9	13.0	253
契約・派遣等	25.2	61.8	3.1	9.9	131
自営・家業	75.0	3.6	3.6	17.9	28
女性計	30.0	57.9	3.6	8.5	974

①資格

- さん(女性・調査当時27歳) 専門学校にて簿記1級を取得するが、家庭内の問題を避けるためにワーキングホリデーへ
- ワーホリから戻ってすぐにハローワークで仕事探し。会計関連で転職、派遣などを経験するが、ブランクを開けずに仕事を継続
- 大企業の紹介予定派遣とベンチャー企業とで悩んだが、ベンチャー企業の正社員へ
- 経理として入社するが、小企業ゆえ、仕事の幅が広がる

②夢追求

- Qさん(男性・調査当時24歳)は、大学時代(専攻は農学)に格闘技にのめりこむ。
- 卒業時に地元に戻って農業関係に就職したが格闘技と両立できなかつたため離職して再び上京、アルバイトで生活費を稼ぎつつ、格闘技を再開。
- 結婚を機に正社員になろうと、WEBで見つけた求人に応募、農業関係の仕事で採用される。

③企業以外の活動

- Gさん(男性:調査当時28歳)は、大学になじめず、NGO活動とアルバイトに没頭
- 卒業後はタイでNGO活動し、組織の立て直しに関与。2年後帰国するも、活動の在り方に疑問を感じ、結婚を機に4カ月ほど主夫に
- NGO活動中に見よう見まねで学んだITスキルを生かしてIT業界の小企業に就職。現在の仕事にあきたらないので、独立を目指す

挽回型移行の特徴と課題

- ブランクが少なく、就業形態は様々でも、仕事内容に一貫性があったり、能力を獲得していたりなど、「専門性」に結び付いている
- 自らのキャリアを切り開く意志の強い「自律性」の高い若者たち＝「再帰的な」プロジェクトを遂行できる者たち
- きわめて「個人化」された移行プロセスをたどることになる⇔「組織化」された移行

「組織化」された移行の衰退

資料出所：『学校基本調査』各年度

	就職者	職業安定所又は学校を通じた就職者	組織的斡旋率
2003年3月卒	212,863	156,425	73.5
2004年3月卒	208,903	157,155	75.2
2005年3月卒	208,746	159,095	76.2
2006年3月卒	210,439	158,966	75.5
2007年3月卒	212,600	161,298	75.9
2008年3月卒	206,588	159,579	77.2
2009年3月卒	193,563	149,568	77.3
2010年3月卒	168,673	113,041	67.0
2011年3月卒	160,272	99,193	61.9

見えてくる課題とは

→移行プロセスを「個人化」させず、若者に「自律性」の高さを求めない支援の構築

新しい「組織化」のあり方とは

→「自営希望」の低下

多様な働き方を若者に示すには

→「新しい働き方」への期待と不安

ワークスタイル調査の概要

(労働政策研究・研修機構 2012『大都市の若者の就業行動と意識の展開』労働政策研究報告書№148)

調査年	調査名	地域	抽出方法	調査対象者	調査対象者数
2001年	第1回若者のワークスタイル調査	東京	エリアサンプリング法 (フリーター1000人、 非フリーター1000人に 割り付け)	18-29歳	2000人
2006年	第2回若者のワークスタイル調査	東京	エリアサンプリング法 (割り付けなし)	18-29歳	2000人
2011年	第3回若者のワークスタイル調査	東京	エリアサンプリング法 (割り付けなし)	20-29歳	2058人
2008年	北海道版 若者のワークスタイル調査	北海道 (札幌)	エリアサンプリング法 (割り付けなし)	20-34歳	600人
		北海道 (釧路)	無作為抽出	20-34歳	240人に依 頼・113人回 答・回収率 47.1%
2008年	長野版 若者のワークスタイル調査	長野(長 野市)	エリアサンプリング法 (割り付けなし)	20-34歳	500人
		長野(諏 訪・茅 野・岡 谷)	エリアサンプリング法 (割り付けなし)	20-34歳	500人